

第3回 仙北市角館地域審議会会議録

開催日時 平成21年1月23日(金) 午後1時30分
開催場所 角館交流センター 第1研修室
会議に出席した委員

会 長 柏谷圭一郎
副会長 田口 武彦
委 員 山本 陽一
" 茂木千代太郎
" 経徳 紘一
" 渡邊 敏明
" 伊藤 一長
" 鈴木加代子
" 菊地 勝子
" 青山 芳
" 新山 睦子
" 岩澤 昭夫
" 白旗 中

会議に欠席した委員

委 員 桃園 豊弘
" 藤峰 成利

会議に出席した職員

角館地域センター長 大楽 進
企画政策課長 高橋 新子
企画政策課主査 阿部 聡
総合窓口課長 清水 力
総合窓口課主査 芳賀 京子

書 記

総合窓口課長補佐 本田 俊彦

○午後1時30分開会。

○柏谷会長あいさつ

本日は皆様大変お忙しいのところ、お集まりいただきましてありがとうございます。世の中が混沌といたしておりまして、先行きの見通しが見つからない状況となっております。そんな中で、角館地域審議会の皆様には大変ご難儀をおかけいたしております。最近、限界集落ということで大変話題になっておりますが、これからの角館町の課題というものを、今日は是非決めていただき、審議して参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

柏谷会長

前回の審議会で質問のありました中川地域の水道事業、病院事業、子ども農山漁村交流プロジェクトについて、事務局から説明をお願いいたします。

阿部企画政策課主査

資料に基づき、中川地域の水道事業、病院事業、子ども農山漁村交流プロジェクトについて説明（内容省略）

柏谷会長

今日は、角館地域の課題について審議していただくわけですが、数ある課題の中からテーマを絞り、今後における協議の方向を決めたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それではお一人ずつお願いいたします。

茂木委員

町内の活性化、農村の活性化が人口流出の抑制につながると思います。また、病院の問題についても、我々でも考えられるようなことについて、話し合うことができるようなテーマがあると思いますので、その中から一つか二つに絞らないと、限られた時間では無理があると思います。

鈴木委員

農地・水・環境保全向上対策での活動を通じて、地域のみんなが協力して事業を進めています。今は補助金があるようですが、その補助金が無くなっても地域の活動として続けて行くことが大切だと思います。

雲然のイタヤ細工（県指定伝統的工芸品）ですが、細工をしている人は限られた人数なので、その技を伝承していくためにも、また、農山村体験事業のメニューにもなっていますので、後継者育成等に力をいれて欲しいと思います。

前々からいわれていることですが、町内に駐車場が少なく買い物をするにして

も不便な状況だと思えます。町内に駐車場があることで買い物客も増えると思えます。

新幹線が開通した時期に、「あいさつをしよう」という運動があったと思いますが、その運動を復活させるのも良いことだと思います。

新しく何かを起こすとなれば、なかなか思い浮かばないので、今あるもので頑張ることも必要だと思います。

青山委員

少子高齢化対策として、市では具体的にどんな対策をしていますか。

阿部企画政策課主査

前回の資料にもありますが、「子育て支援と保育体制の充実」と「高齢者福祉と介護保険事業の充実」と題し、取り組んでおります。

青山委員

国内全体の人口が減少していることを考えますと、他から来ていただくための施策が必要になると思えます。どうすれば角館町を選んでいただけるのか、選んでいただけるためには、魅力のある物理的なサービスが必要になると思えます。

高橋企画政策課長

重点プロジェクト推進室では、定住を応援するための情報を市ホームページで公開し、仙北市に定住する方を呼び込むために空き家情報、定住するための教育相談、生活環境的なことを一元的に受け付けています。また、仙北市を知っていただくために、スローライフモニターツアーを開催し、仙北市を体験していただくことも実施しております。

定住していただいた場合は、3年間固定資産税相当額を定住促進奨励金として交付する制度を設けております。

柏谷会長

空き家情報に間取りを載せることも検討していただきたいと思えます。

高橋企画政策課長

重点プロジェクト推進室で検討中です。

岩澤委員

人口減少の対策としては、青山委員が言われたとおり私自身がそうですし、よそから呼び込むことも大切なことだと思います。県内外でも人を呼び込むための施策を実施しています。角館町は観光地で、首都圏を中心とした観光客がたくさ

ん来ますので、長期滞在型で来ていただく事を考えて行くことが必要だと思います。私の経験から一戸建ての空き家やアパートの空き家等の情報が充実していることが必要だと思います。私は2、3年経ったら、あの県のあの町へ行って1ヶ月くらい滞在して、遊んでみたいということをいつでも思っています。たとえば、京都に1ヵ月、長野県の松本市に1ヵ月という気持ちがあります。2000年にサラリーマンを卒業しまして、1年後角館町に住みました。その1年間どうしたかといいますと、町内に借家を借りまして角館に1ヶ月、横浜に1ヶ月というように行ったり来たりしていました。その間、私の友人や家内の友人が、角館に遊びに来て1週間程泊まって遊んでいきました。やはり中期滞在をしていただくような誘致が必要だと思います。空き家や空いているアパート等をお世話し「桜や夏の避暑地、鮎釣り等の時期に角館に来ませんか」という形で1ヶ月以上滞在していただき、気に入ったら住んでいただく。私の友人で、借家を借りて当分の間住んでみるという人もいますので、取り組んでみてはどうかと思います。

大楽角館地域センター長

定住促進関係では、秋田朝日放送で毎週土曜日6時からの「人生の楽園」という番組で、定年退職され、生保内に定住された御夫婦を取り上げ、今週の土曜日31日に放送されますので、ご覧いただきたいと思います。

田口副会長

青山委員と岩澤委員にお伺いしたいのですが、人口減少と定住促進についてお話をいただきましたが、これを課題にするとすれば、どのような角度で絞り込むかということについて、ご意見があればお話しいただきたいと思います。

青山委員

現在子育て中ですが、その子どもたちが角館町に残ってくれるのか。就職のことを考えますと、残ってくれとはいえないのが実情です。こんな状況では他からの転入は期待できないと思います。都会等で定年を迎えた方々や、近隣で生活されている方々に、角館町を選んで住んでいただくためには、他にはない魅力が必要になると思います。全体を考えると大変なので、たとえば、近隣の若い人にターゲットを絞る場合は、子育てに関して、他にはない優遇措置等で子育てがしやすいことをアピールすることで、選択肢の一つに加えていただくというように、細分化して具体的な方策について考えていくと良いと思います。

山本委員

課題を絞るということですが、差し迫っている課題が多すぎて正直なところ迷っています。時間が限られていますので、会長、副会長がこれまでの会議で話し合われた中から、課題を提案していただければと思います。

経徳委員

角館地域の活性化のためにはどういうものがあるのか、となりますと農業の問題、商工業の問題、観光の問題、いろいろあると思いますが、たとえば“農村の活性化について”というように、絞り込んだ形の中で進めたらどうかと思います。

伊藤委員

定住促進を例にしますと、行政の重点プロジェクトで、定住促進を検討していると思いますが、プロジェクトが検討している部分と、重複することがないような配慮をお願いしたいと思います。たとえば、プロジェクトではこの部分の検討を行っているので、他の部分について検討をお願いしたい。というようにしていただければと思います。また、市で課題の副案的なものがありましたら、お話しいただければと思います。

仙北地方は、農家が元気にならないと活性化は難しいと思っています。いろんな要素が絡み合っていて、成果が表れるものだと思いますが、まずは、仙北市の農村問題を中心にした検討をしたらどうかと思います。また、周辺を絡めた旧仙北郡地域との交流も、大切な要素になると思います。

菊地委員

委員になって、自分が住んでいる地域を活性化させて、住みよい地域にするためには、自分自身が主体性を持って、問題を見つけていくことが大切だということを、改めて認識しました。そこで、市が良くなっていくためにはどんなことが必要なのか、ということ仲間と話し合う機会が増え、その中で、仙北市が良くなるには、農業が活性化しないと仙北市全体も活性化しないのではないかと。今までは観光のことばかりで、農村に目を向けずにきてしまったのではないかと、という話がありました。藤峰委員が提出されたご意見を拝見し、私も同感だと思いました。

《 藤峰委員の意見 抜粋

マスコミで話題の、大野晃（長野大学教授）著「限界集落と地域再生」を読みました。改めて、角館地域の課題を「農山村地域の活性化（又は再生）」としていただきたいと思います。

農山村地域を活性化することができれば、少子高齢化に歯止めをかけることができますし、さらに、地区、市全体としての抱えている種々な問題の解決に大きな波及効果が期待できます。

今、農林業に対しては、食料自給率の向上、地球温暖化への対応、食糧危機、食の安全、金融危機に端を発した経済破綻による雇用問題解決の方策としての就職あっせん等々、これまでにない良い風が吹きつつあります。こうした状況の中で、審議会の課題を「農山村地域の活性化」に決定する

事は、時宜を得たものになると思います。その上で、具体的に中川、白岩等対象とすべき農村地域を決定し、実態調査を行い、その課題を分析し、地域の状態に応じた対策を講じ、活性化に取り組んでいくべきと思います。》

農山村地域が活性化するための対策を、この審議会の課題として審議していただければと思います。

白旗委員

自分が住んでいる地域を良くしていくために、何が必要なのかについて話し合うことで、行政の運営に少しでも参考になればと思います。

田口副会長

私も、農山村地域の活性化が課題だと思いますし、それをどのようにして、観光資源や町の中心部の活性化に結びつけることができるのか、難しいとは思いますが、できれば農村部だけではなく、町部からも課題を一つ取り上げ、農村部と町部が元気になるよう二つに絞って、皆さんから審議していただければと思います。また、課題の題名についても、ご意見をいただきたいと思います。先ほど、伊藤委員から「市で課題の副案的なものがありましたらお話しいただければ」という意見がありましたがいかがですか。

大楽角館地域センター長

基幹産業である農業の活性化が課題だと思います。まずは、実現可能な課題からその方策を審議していく中で、必要に応じ、課題の範囲を広げていく方法もあるかと思っています。

高橋企画政策課長

仙北市総合計画概要版に地区別の目指すべき方向として、角館地区では3項目を挙げています。

- ★ 商店街の振興や都市基盤整備等を進め、中心市街地活性化対策に取り組めます。
- ★ 武家屋敷周辺地域は、城下町としての形態を維持しつつ、その保存整備に努めます。
- ★ 白岩、雲沢、中川地域は、地域ぐるみで農業の担い手育成や特産作目の生産拡大、畜産の振興に努めます。また、他地区と連携したグリーンツーリズムや武家屋敷と農業を結びつけた体験学習をメニュー化し地域の活性化をめざします。

このように、角館地域を活性化するための三つの方向付けがされていますので、

この中から選ばれてもいいのではないかと思います。

新山委員

北海道の東川町が取り組んでいる“「写真の町」ひがしかわ株主制度”というパンフレットをみて、定住という考え方ではなく、株主という交流のための関係を作る、という考え方もあるんだなと思いました。同じことをしてうまくいくかはわかりませんが、仙北市の知名度から見て、そのような考え方もあるのではないかと思います。そのためには、観光協会や商工会等の協力が必要になると思いますが、仙北市でも取り組むことは、悪いことではないと思います。

経徳委員

観光協会では、都内で活躍されている在京の方々に、ふるさと観光大使を委嘱し、機会ある毎に、地元ふるさとをPRしていただいております。

7、8年前になりますか、観光協会がJAと連携した農産物のPR・販売を呼びかけた経緯があります。農業と観光は連携があって然るべきで、なければ発展しないと思います。観光客の皆さんに農産物・特産物等、地元の良さをひとつの魅力として売り出すことが、繋がりになっていく感じがします。

午後2時40分休憩

午後2時50分再開

柏谷会長

それでは、休憩以前に引き続きまして会議を再開いたします。

渡邊委員

大変素朴な質問ですが、3町村が合併したことで財政状態はどのようになっていますか。

大楽角館地域センター長

財政の見通しとしては、資料（仙北市総合計画）に合併から10年間の目標を示してあります。人件費の削減をはじめとする行財政改革の推進を図り、財政の改善に努めております。

柏谷会長

委員の皆様方から、課題について意見をいただきましたが、ここで、まとめに入りたいと思いますのでよろしく願いいたします。

課題としては、基幹産業である農業の活性化及び観光との連携という意見が基本のようです。農業に関する現状は、皆さんお分かりのとおりで大変厳しいも

のとなっております。行政でも対策を検討していることと思いますが、皆さんから意見がありましたらお願いいたします。

岩澤委員

角館地区を活性化させるには、やはり農業だと思います。農産物の流通先は東京を中心とした首都圏になると思います。ここに、如何に農産物を売り込むかだと思います。“秋田の米や野菜、比内地鶏は本当にうまいんですよ”というような売り込み方を、真剣に考えなくてはいけないと思います。売る方法はいろいろあると思います。現在、東京の上板橋に“アンテナショップとれたて村”がありますが、12月に、東京へ行った折に場所を見てきました。仙北市のスペースが狭いことと、夕方の4時頃でしたが、人通りが少なかつたように思いました。アンテナショップですから、首都圏であれば人の出入りが多い、私鉄沿線のターミナル駅に設置することができれば、もっと良くなると思います。

柏谷会長

岩澤委員の言われたことは、良くわかりますしもっともなことだと思います。アンテナショップ事業は、“上板橋のとれたて村”に参加することで始まりましたが、まだ日が浅く効率の良い活用方法等模索しながら、関係される皆さんは一生懸命努力をしています。予算等諸事情からしますと、現状が精一杯ではないか思います

岩澤委員

地元農作物の売り込みで感じていることですが、どうして、桜並木駐車場に農作物を販売するスペースを作らないのかと思います。飛騨高山や長野の松本にいけますと、駐車場で物産品を販売しています。駐車場であれば、角館からの帰りに、30キロのお米や野菜を買って、トランクに入れて帰っていくと思いますので、検討してみてもいいのではないかと思います。

田口副会長

意見も出尽くしたようですので整理してみますと、主題としては、農山村の活性化のようです。副題としては、いろいろな意見がありましたが、たとえば、農産物の販路拡大の推進のための方策としては何があるのか、というところで今、話し合われたことがでてくると思います。農村環境の保全、地産地消の方策、限界集落に対する方策、農地・水・環境保全向上対策の拡大及び活用方法、観光資源の保存・連携等を副題とし、それらを個々に挙げていただくことで、農村の活性化につながり、商業の活性化に結びついていくような形で、まとめていくことになるかと思いますが、いかがでしょうか。

菊地委員

審議会の今後の予定は、どうなりますか。

田口副会長

今年度の会議は、この会議で終わりですが、来年度は、3回の会議を予定しております。そこで審議会の意見をまとめて、市長に具申することになりますが、日程的なことはまだ決めていません。

高橋企画政策課長

12月に入ると、新年度の予算編成が始まりますので、できれば11月末まで意見をまとめていただければと思います。

伊藤委員

事務局にお願いですが、角館審議会では角館地域のことについて審議をしていくわけですが、他2地域審議会の審議内容を教えていただき、同じテーマにならないような配慮をお願いいたします。

茂木委員

次回から、具体的に話し合われることになると思います。委員の皆さんからご意見が出され、大きな問題としては農山村の活性化や市内の活性化ということなので、会長、副会長、事務局で協議し、テーマを絞っていただいて、次回からはそのテーマについて、審議ができるような体制にもって行っていただきたいと思っています。

山本委員

テーマが決まりましたら、早急に委員の皆さんに配布していただきたいと思います。次回の審議会までに考えをまとめるためには、時間が多くあったほうが良いと思うので。

田口副会長

主題として「農山村の活性化」、サブタイトルとして「都市交流促進」、「農産物と観光の連携」、「既存補助制度の活用」、「限界集落対策」、「地産地消」、「農産物の販路拡大推進」等考えられますので、会長、事務局と協議をして、早めに委員の皆さんにお知らせする、ということでもよろしいか確認したいのですが。

柏谷会長

みなさん、いかがでしょうか。

異議なし

田口副会長

課題としてのテーマ、サブタイトルが決まりましたら、委員の皆さんにお知らせいたしますので、委員の皆さんの中で質問等ありましたら、事前に事務局にお知らせ願いたいとのことでした。その際は、前期の答申内容や、前回の第2回審議会に提出された仙北市総合計画の進捗状況の資料にある内容と、重複しないようにしていただければと思います。

白旗委員

学力は、地域の活性化に非常に深い係わり合いを持つものなので、教育についても併せて考えていくことも必要と考えます。

柏谷会長

他に、ご意見はありませんか。

無いようなので、今日の審議会を終わりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

異議なく了承

午後3時30分閉会